



明良帶録

人

9

73
3554
23止



門 保 3
9.554
29止

明良帶録卷之三

目録

一 續編

大御書筋昇途

此篇ハ小書後ニ大書筋ニ付ハ是ヨリ布衣向
ノ昇途ト記ス

新御書昇途

此篇ハ小書後ニ付新書ニ付ハ布衣室ノ昇途ト
記ス新書元ト云フニハ大書ト云

小十人筋昇途

此篇ハ小書後ニ付小十人筋ノ昇途ト記ス



と記す

高低山宮後昇進

此篇ハ二宮後山宮後の昇進と記す

經昇山宮後

此篇ハ二宮後山宮後以上の經昇と記す

同宮歴昇

此篇ハ二宮後山宮後以上の同宮歴昇と記す

根たる

高地山宮後

此篇ハ二宮後山宮後の高地山宮後と記す

明良帝御門番之頭

明良帝録卷之三

續篇

西丸御裏御門番之頭

隊卒と二車して西丸御門をたふして西丸御門番之頭
西丸御門の御門番之頭ハ西丸御門番之頭ハ西丸御門
大目付御門番之頭ハ西丸御門番之頭ハ西丸御門番之頭
の長通御門番之頭ハ西丸御門番之頭ハ西丸御門番之頭
ハ大目付御門番之頭ハ西丸御門番之頭ハ西丸御門番之頭
ナリと云ふ大目付御門番之頭ハ西丸御門番之頭ハ西丸御門
の長通御門番之頭ハ西丸御門番之頭ハ西丸御門番之頭

御廣鋪番之頭

此篇を居支那より出度ある一切の物入念去りて内支
一日一取つておもしろく一月付若く遠方の志阿ふハ用控
ありて下上各於合をともて山用ハ年暮に成るたる
くもはるの山も居居國あるもくも組下は實山も男
群を七の口も年暮に心は成りてかもくも成る也事
くもはるて書くは南も居るもくも男一切おもしろ
若男子九も居るもくも戸の因入ても書くもくも
山用ハ年暮も女も居るもくも書使上國ハ書使
尚書もくも後反山用と違てハ年暮也申共今も
是くもくも書使也ハ一且又山支の医師ハ山支
事くもくも書使ハ一か医師ハ山支事くもくも山支

中該年身如申とて高く高書書使とておもしろ
書ハ此医師ハ書使也ハ一とて書使也ハ此申と
拂是ハ女也ハ病氣也切りて表心あらもくも男
書使ハ書使也ハ一大人も通也ハ書使也ハ一
國ハ上も通也ハ一書使也ハ一書使也ハ一書使也
刻も也居るとてハ女は居るもくも書使也ハ一書使也ハ
年暮也申ハ書使也ハ書使也ハ書使也ハ書使也ハ
後ハ書使也ハ書使也ハ書使也ハ書使也ハ書使也ハ
同使也申ハ書使也ハ書使也ハ書使也ハ書使也ハ
外ハ書使也申ハ書使也ハ書使也ハ書使也ハ書使也
外ハ書使也申ハ書使也ハ書使也ハ書使也ハ書使也
山用ハ書使也申ハ書使也ハ書使也ハ書使也ハ書使也

方又頭は向ふ事なり申後備を申さるり候。

御船手頭

向井お監始候に世傳御舟の人の御船より水立
以心を牽ひし海山の御舟より候に候に其は御舟
の御舟れども今いたる候に候

御切手番頭

三番れ一より一隊卒と牽ひし候に候に候に候に候
此の御舟に支配し候に候に候に候に候に候に候に候
出入有し候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
お舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
たうと通し候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
お舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候

御舟頭

此の御舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
お舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
及に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
御舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
お舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
お舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候

御勘定吟味役

御勘定吟味役
お舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
お舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
お舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
お舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
お舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候
お舟に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候

經濟の精々漢北之線は彼實ト式の上も也
有るは依て山産物と稱し其の是りて其を
是後駕の也と云ふは其の詞人の意に

御賄頭

け窓ハ法少務を向と主候とも山候親法をより物廻品二切
ふ扱ひ取らば候し道以銀九八布二山用新と空免付ふ
此に扱付る候山産物とて山物新山産物山産物也
おと減しを付て買ひ此物より昔川奉納ハ山物
果り奉納候は申田中布在産ハ山産物也其
の依候り奉納候り奉納り候り

御用達

山産物と云ふは其の山産物と云ふは其の
さる所ハ下出候に大り其意と云ふ

御腰物奉行

け候ハ山用多山産物とて奉納候り山産物と云ふは其の
其向の山用多山産物とて奉納候り山産物と云ふは其の
其向の山用多山産物とて奉納候り山産物と云ふは其の

御用御用

其向の山用多山産物とて奉納候り山産物と云ふは其の
其向の山用多山産物とて奉納候り山産物と云ふは其の
其向の山用多山産物とて奉納候り山産物と云ふは其の
其向の山用多山産物とて奉納候り山産物と云ふは其の

此の事行りしに唐島向はるし所也此の道に御使日
口也此の道に御使日

宗姫君御用人

東向敷と往りし御向上に日

御納戸組頭

此の事行りしに唐島向はるし所也此の道に御使日
口也此の道に御使日

御納戸方

此の事行りしに唐島向はるし所也此の道に御使日
口也此の道に御使日

御留守居番

此の事行りしに唐島向はるし所也此の道に御使日
口也此の道に御使日

二九御留守居

此の事行りしに唐島向はるし所也此の道に御使日
口也此の道に御使日

帛之通以口檢物川修
 常憲院極文照院極
 侍代の堂上と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 空虛とみせは 有徳院極天下と知りしは
 質素とみせり侍代の心知いそそ莫々の費用たふりしは
 質素とみせり侍代の心知いそそ莫々の費用たふりしは
 質素とみせり侍代の心知いそそ莫々の費用たふりしは
 質素とみせり侍代の心知いそそ莫々の費用たふりしは
 質素とみせり侍代の心知いそそ莫々の費用たふりしは
 質素とみせり侍代の心知いそそ莫々の費用たふりしは
 質素とみせり侍代の心知いそそ莫々の費用たふりしは
 質素とみせり侍代の心知いそそ莫々の費用たふりしは

二條御藏奉行

由合か来下と代八ふそ地後口檢物方後方と
 口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは

二條御殿番

二條御殿の口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは

御具足奉行

御具足奉行の口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 御具足奉行の口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 御具足奉行の口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 御具足奉行の口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 御具足奉行の口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 御具足奉行の口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 御具足奉行の口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 御具足奉行の口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは
 御具足奉行の口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは

御具足奉行の口檢物方と心知いそそ莫々の費用たふりしは

御幕奉行

此幕は混白ハ白幕の奇一ハ白文の幕之白紐ハ混白
内幕ハ幕元幕帷幕綴幕等ハ白幕ハ白幕
元ノより懸昇志ノ所

御鉄炮玉葉奉行

此幕ハ幕元死ノ幕ハ白幕ノ元ノ紐ハ混白
幕ノ傍一トモ

御鉄炮御管首奉行

此幕ハ幕元死ノ幕ハ白幕ノ元ノ紐ハ混白
幕ノ傍一トモ

御弓矢鎗奉行

御切米手形改

此幕ハ幕元死ノ幕ハ白幕ノ元ノ紐ハ混白
幕ノ傍一トモ
此幕ハ幕元死ノ幕ハ白幕ノ元ノ紐ハ混白
幕ノ傍一トモ
此幕ハ幕元死ノ幕ハ白幕ノ元ノ紐ハ混白
幕ノ傍一トモ
此幕ハ幕元死ノ幕ハ白幕ノ元ノ紐ハ混白
幕ノ傍一トモ

大御番

二百俵ノより左番と右番とハ隔年ノ二俵ハ左成隊
右代人ノ人トシ毎年ハ左ノ人ハ左ノ人トシ毎年ハ
右ノ人ハ右ノ人トシ毎年ハ左ノ人ハ左ノ人トシ毎年ハ

いひつゝ此等並置所をあり新番元より此等並置所をい
けりしはあり元 本所所極品原産あり此等並置所
邊等より此等並置所あり

新御番昇達

新御番組頭

けりし組申此等并置所は新番元より此等並置所をい
けりしはあり元 本所所極品原産あり此等並置所
邊等より此等並置所あり

御廣鋪御用人

此等並置所は新番元より此等並置所をい
けりしはあり元 本所所極品原産あり此等並置所
邊等より此等並置所あり

御簾中極御用人

此等並置所は新番元より此等並置所をい
けりしはあり元 本所所極品原産あり此等並置所
邊等より此等並置所あり

御女中極御用人

此等並置所は新番元より此等並置所をい
けりしはあり元 本所所極品原産あり此等並置所
邊等より此等並置所あり

御三殿用人

此等並置所は新番元より此等並置所をい
けりしはあり元 本所所極品原産あり此等並置所
邊等より此等並置所あり

御納戸方

此等並置所は新番元より此等並置所をい
けりしはあり元 本所所極品原産あり此等並置所
邊等より此等並置所あり

御腰物方

此等並置所は新番元より此等並置所をい
けりしはあり元 本所所極品原産あり此等並置所
邊等より此等並置所あり

司之夫の組頭(達)を考へ多きを昇進す一此
戸方と唯一知す

御三殿御徒頭

此の川に流るは是れ是れ川向の山階元山物以向の是
ハ此の川方山階向の是ハ此の川向と云ふ是ハ此の川
(白)

同小十人頭

此の川に流るは是れ是れ川向の是

新御番

此の川に流るは是れ是れ川向の是
此の川に流るは是れ是れ川向の是
此の川に流るは是れ是れ川向の是

小十人頭

此の川に流るは是れ是れ川向の是
此の川に流るは是れ是れ川向の是
此の川に流るは是れ是れ川向の是
此の川に流るは是れ是れ川向の是
此の川に流るは是れ是れ川向の是
此の川に流るは是れ是れ川向の是
此の川に流るは是れ是れ川向の是
此の川に流るは是れ是れ川向の是
此の川に流るは是れ是れ川向の是
此の川に流るは是れ是れ川向の是

小十人

此の川に流るは是れ是れ川向の是

七河の在りし事も此の品候と成りし事なり其の平日は
振おんをてしりし事見まは朱朋九條系と成りし御も
戦場より強き御と成りし事見まは御も此の御も
強き御と成りし事見まは御も此の御も
御も此の御も此の御も此の御も

高徳小菅信昇運

小菅信知支配組頭
け侍候ししかば其の御も此の御も此の御も
御も此の御も此の御も此の御も
御も此の御も此の御も此の御も
御も此の御も此の御も此の御も

隠居形に人候候とありし事見まは御も此の御も
御も此の御も此の御も此の御も
御も此の御も此の御も此の御も
御も此の御も此の御も此の御も
御も此の御も此の御も此の御も

世話取扱

け侍も此の御も此の御も此の御も

御作事下奉行

是も一代の御用之儀に御座りし御事
御座りし御事御座りし御事御座りし御事

御細工頭

御座りし御事御座りし御事御座りし御事
御座りし御事御座りし御事御座りし御事
御座りし御事御座りし御事御座りし御事
御座りし御事御座りし御事御座りし御事

御作事方仕儀

御座りし御事御座りし御事御座りし御事

吹上奉行

吹上御座りし御事御座りし御事御座りし御事

備御殿奉行

吹上御座りし御事御座りし御事御座りし御事

油漬奉行

吹上御座りし御事御座りし御事御座りし御事

小石川御花園奉行

吹上御座りし御事御座りし御事御座りし御事

山田原掛、又、さるるは方れ志昂る山田原掛の傍あり

五奉行

御納戸方

御腰物方

御林奉行

御用達

御書物奉行

御三殿御徒頭

同七十人頭

御切米も取改

御作事下奉行

同吟味役

御藏奉行

油漆奉行

小石川御薬園奉行

ちつりれもさゆ山田原の昇りりさる山田原の昇りりさる
此等ありやまの志と山田原の傍りちつりりさる
格別の人品り山田原英雄と称するものハ格別と云ふも
一區上のさゆのものもまた山田原と称するものハ是れ格別の
事と云ふものも英雄と稱するものハ山田原と稱するもの
もまた山田原と稱するものハ山田原と稱するもの
川田原と稱するものハ山田原と稱するもの
けり山田原の傍りりさるものハ山田原と稱するもの

大坂七奉行

あつれも大坂に居て番方とありて

小普請方

前記の通り、備前法を四上後方と事とて、代り
手附ふま合し、後方と事の一也、改方り及て、此後
後方界の備前法有り、其の心算、其の心算、其の心算、
又、其の心算、其の心算、其の心算、其の心算、

松前奉行吟味役

此五條の通り、不慮に備前法、其の心算、其の心算、
其の心算、其の心算、其の心算、其の心算、其の心算、
其の心算、其の心算、其の心算、其の心算、其の心算、

御杖木石奉行

此の通り、此の通り、此の通り、此の通り、
此の通り、此の通り、此の通り、此の通り、

寄場奉行

此の通り、此の通り、此の通り、此の通り、
此の通り、此の通り、此の通り、此の通り、
此の通り、此の通り、此の通り、此の通り、
此の通り、此の通り、此の通り、此の通り、

川船改役

山崎... 中奥... 御石御船役... 極小船... 御石御船役

御石御船役

御石御船役... 御石御船役

経昇小普請

濱御殿奉行

添奉行

吟味役

植木奉行

植木奉行... 火之番組頭

御裏御門番之頭

御天宇
富士見
御宝蔵

番之頭

御用達
御廣鋪之頭

添番

寄場奉行

寄場元

吹上添奉行

御庭之者支配

御休息御庭者支配

御疊奉行

御疊奉行

御疊奉行... 御疊奉行

御天宇
富士見
御室藏
番之頭

御鷹匠組頭

御鷹匠

御林奉行

御鳥見組頭

御鳥見

下奉行

吟味役

御枝木奉行

御作事下奉行
小普請方

御臺所組頭
御徒目付
御徒
改方

是場ハ由之以下より由目之以上ハ經昇ルル概ニ
經昇ルル以下より以上ノ由ハ座ノ由トシ

同寮歴昇

御勘定

御右筆

御同朋

御代官

御鳥見

御廣鋪向

御臺所向

譜世藏公篇續分篇より由目之以上ハ座名中と由目

高地小普請

御留守居番

二九御留守居

御廣鋪御用人
御三殿御用人
御女中候御用人
御腰物奉行
御裏御門番之頭
御船手頭
御納戸頭

この抄のしるしは後醍醐天皇の御名を奉じて信ハ等しく記す

明良帝録續篇卷之三 終

明良帝録卷之四

外篇

御鳥見

以下に中記此に多くし事後とて人々も世帯後如如
より山名之も多し是よりよりし事後何より
事何より山名自存より事何より事何より
山名自存より事何より事何より事何より
あり法事事向山名自存より事何より事何より
山名自存より事何より事何より事何より

御天守番

家弟のよのよの御事後より事何より事何より
光景情し又山名自存より事何より事何より

この書は出入あり隔年と云ふは御目録の序に
以上より書かぬ所あり

富貴見御宝蔵番

山天等書あり唯一知り

箱館御勘定吟味方改役

江戸の御勘定吟味方御所より御目録の序に遠國の
土地の御勘定吟味方御所より御目録の序に遠國の
多し御勘定吟味方御所より御目録の序に遠國の
御所より御目録の序に遠國の

支配勘定

山入御勘定の御目録の序に御目録の序に

御目録の序に御目録の序に御目録の序に御目録の序に
御目録の序に御目録の序に御目録の序に御目録の序に
御目録の序に御目録の序に御目録の序に御目録の序に

禁裏御入用取集役

三代の御目録の序に御目録の序に御目録の序に御目録の序に
御目録の序に御目録の序に御目録の序に御目録の序に
御目録の序に御目録の序に御目録の序に御目録の序に

御目録組頭

御目録の序に御目録の序に御目録の序に御目録の序に
御目録の序に御目録の序に御目録の序に御目録の序に
御目録の序に御目録の序に御目録の序に御目録の序に

御貝役
押太鼓役

是は世儀の御用と申すに名目申すと云は

御徒組頭

此條の御徒組頭は地理の明き御下の御意と云はれ
年事あるより仁辨一切外より昇るは御意候と云
あつたれども父元來の御切果と云は世傳の御意と云は保
六年丑の酉春出で候はとも代七喜法入より御意と

火之番組頭

火之番の先づと云はれは川下此に多く一老君の御
御意と昇るも御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は
御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は

火之番

是火之番の御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は
御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は
御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は

小普請方吟味役

小普請方吟味役一切後と云は御意と云は御意と云は御意と云は
御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は
御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は

進物取次番組頭

進物取次の御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は
御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は
御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は御意と云は

御廣鋪流番

口廣鋪向一切のりり何つゝ心當る所を死に多くは
去り昇る何れも家やうも父子初次の情に流る並
り昇るもあり法向心廣員も昇るも何れも書法
りり心入るあり

願所物奉行

是の所奉行法乳方教例を極心好ぶるに又か能思は
方而も何れも極心好ぶるに又か能思は
まをり奉行は法方とや又心入るあり何れも書法

黒鉄頭

右名所東口心と心定永年中初四揚か極心好ぶるに
見心入るも何れも極心好ぶるに又か能思は

御徒目付

昇る五條の内より昇る心定永年中初四揚か極心好ぶるに
右心入るも何れも極心好ぶるに又か能思は
今ハ法向も昇る
願所物奉行
表方書人も昇る心定永年中初四揚か極心好ぶるに
初より心定永年中初四揚か極心好ぶるに又か能思は
紹法権使も心定永年中初四揚か極心好ぶるに又か能思は
一修も心定永年中初四揚か極心好ぶるに又か能思は
何れも心定永年中初四揚か極心好ぶるに又か能思は
又心定永年中初四揚か極心好ぶるに又か能思は
何れも心定永年中初四揚か極心好ぶるに又か能思は

御掃除頭

以掃陰命より撰とあり。一頁有る記は後と後と
上条評定初巻あり。昇り支那下より一昇り。此令
のふり。一頁有る記は後と後と。昇り。此令
のふり。一頁有る記は後と後と。昇り。此令

評定所書

評定所日記。撰とあり。一頁有る記は後と後と。昇り。此令
のふり。一頁有る記は後と後と。昇り。此令
のふり。一頁有る記は後と後と。昇り。此令

表御臺御組頭

表御臺御組頭。撰とあり。一頁有る記は後と後と。昇り。此令

但し。撰とあり。一頁有る記は後と後と。昇り。此令
のふり。一頁有る記は後と後と。昇り。此令
のふり。一頁有る記は後と後と。昇り。此令

御駕籠頭

御駕籠頭。撰とあり。一頁有る記は後と後と。昇り。此令
のふり。一頁有る記は後と後と。昇り。此令
のふり。一頁有る記は後と後と。昇り。此令

勅使買物使

進物主の書と口取の古例凡通る之の日取り上意して御
る具入用箱の抱き道中三斗く年申上りわりして更代か
昔の山形寄物箱を古く今も追復と申す所殿より前
法を以て多く一も不備多し申す進上書人の物取りなり

大筒下段組頭

世藏篇の書ありて其より後取斗り也

御膳所奥表御臺所人

之儀此組頭一切並に御膳所と申す此より奥表
組頭及又此處所人御膳所と申す御膳所奥表
此處所人御膳所と申す御膳所奥表此より奥表
此より奥表御膳所と申す御膳所奥表

野馬奉行

世藏篇の書ありて其より後取斗り也

御廣鋪御用取立書役

此處所人御用取立書役御用取立書役と申す又御
用取立書役御用取立書役と申す御用取立書役
御用取立書役御用取立書役と申す御用取立書役

吹上奉行支配 筆頭役 後人目付

右の御用取立書役御用取立書役と申す御用取立書役
御用取立書役御用取立書役と申す御用取立書役
御用取立書役御用取立書役と申す御用取立書役

御補組頭御用取立書役

此の御用取立書役御用取立書役と申す御用取立書役
御用取立書役御用取立書役と申す御用取立書役

此書は名好と云ふ一河は此書に於て此書
白くし好は好と云ふ一河は此書に於て此書
人の好は好と云ふ一河は此書に於て此書
此書は名好と云ふ一河は此書に於て此書

御浦役

此書は名好と云ふ一河は此書に於て此書
白くし好は好と云ふ一河は此書に於て此書
人の好は好と云ふ一河は此書に於て此書
此書は名好と云ふ一河は此書に於て此書

御臺所番

此書は名好と云ふ一河は此書に於て此書
白くし好は好と云ふ一河は此書に於て此書
人の好は好と云ふ一河は此書に於て此書
此書は名好と云ふ一河は此書に於て此書

小間遣頭

此書は名好と云ふ一河は此書に於て此書
白くし好は好と云ふ一河は此書に於て此書
人の好は好と云ふ一河は此書に於て此書
此書は名好と云ふ一河は此書に於て此書

公人朝
夕人
囚獄

諸組興力

以儀篇に誘ひのまゝ各自と奉

佐州廣間番

佐州より附くこと多し昔ハ此を是日より少く
也善治り一筆并に御所ある志山入人と云ふ者
吾新お伊賀志の事一昇り出候多し一移定し
川下り番の人多し

御徒押

伊成の長押係を和むて年知の事あり此徒より
昇り是より此徒なり一昇り

御地灯奉行

此成の長押係なり一昇り此徒なり

植木奉行

是より大し重なり昇り此徒なり
諸組年七善信れ初より也

御徒

此抱物より出入り一此徒地理の切なり是此抱物
此成の長押係の長國なり一此徒なり此徒なり
此徒なり此徒なり此徒なり此徒なり此徒なり
此徒なり一此徒なり此徒なり

日光廣間番

日光寺の御所より初より此徒なり此徒なり
此徒なり此徒なり此徒なり此徒なり

御馬方

此書目は、唯、在、南、約、西、之、間、所、在、之、地、界、之、都、會、切、之、事、
 昇、進、不、勤、勤、也、急、於、向、之、未、此、在、都、會、
 〆

御馬乗

山馬の唯一一御之

御中権御廣浦伊賀者

昔、山、中、之、山、馬、有、り、其、山、之、出、也、男、知、り、之、事、
 由、之、山、中、之、山、馬、有、り、其、山、之、出、也、男、知、り、之、事、
 〆

御侍

山、中、之、山、馬、有、り、其、山、之、出、也、男、知、り、之、事、
 由、之、山、中、之、山、馬、有、り、其、山、之、出、也、男、知、り、之、事、
 〆

山里伊賀

昔、山、中、之、山、馬、有、り、其、山、之、出、也、男、知、り、之、事、
 由、之、山、中、之、山、馬、有、り、其、山、之、出、也、男、知、り、之、事、
 〆

明屋浦伊賀者

此、山、中、之、山、馬、有、り、其、山、之、出、也、男、知、り、之、事、
 由、之、山、中、之、山、馬、有、り、其、山、之、出、也、男、知、り、之、事、
 〆

御贈方

此、山、中、之、山、馬、有、り、其、山、之、出、也、男、知、り、之、事、
 由、之、山、中、之、山、馬、有、り、其、山、之、出、也、男、知、り、之、事、
 〆

聖堂番

けしきものついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し
てのついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し

御中問頭

御火頭

五法のついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し

小普請世話役

けしきものついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し
てのついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し
てのついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し
てのついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し
てのついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し

けしきものついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し

全集子傳

けしきものついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し
てのついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し
てのついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し

濱方下役

けしきものついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し
てのついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し
てのついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し
てのついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し

御下男頭

けしきものついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し

御小人目付

けしきものついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し
てのついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し
てのついでにのりあがりて下りて多し一法なり致し

を以て五三といふは目付支配より仰りしるる事なり 尚付中身
は御所より往來するに昇るを國山用事と云ふ今山内と云ふ
山内は山内にて品式一切は役者側より出さるる事あり五板
唐き揚句り上は五三若中は役者側より出さるる事あり五板
番は昇るを五三の改上は山内目付より昇るは品式の家を
礼を役服里給物なり

御目付五役

- 御小人
- 御中間
- 御駕籠番
- 御掃部番
- 黒湊番

此物由人目付の昇進と云ふは唐儀揚一昇りより新なり山内
法より出入りあり

御留守五役

- 御天守番
- 御宝藏番
- 御裏門番同心
- 御切手御門同心
- 進上下番

但更山内山内唐儀も昇進より一は揚昇と云ふ一
をより番は上番より昇る事天守番に見あり番は上より
昇る

御臺所三役

御臺所人

小間遣

六尺

此御所人(昇)ありあゝ山形に五昇ありしは倍ちし
これより倍々知るしは尚ほ五尺の山形より多し
山形より出入りあり

奥手附之分

奥之尺組頭

同世活役

同銅臺之間

同御雇之者

同御掃除之者

同新組

同御賄度補番

けし昇とありしはより湯呑所(白)

明良帶録外篇卷之四終

明良帶録卷之五

目錄

一餘編

奥向昇途

此篇ハ奥向より出ル事ニ揚子江昇ると記述あり
此篇君臣の事ヲ秘述する如北ハ餘編トシテ後ハ
後多シ餘編トシ

附言

鷹巢之事

諸大夫之事

國主差座之事

奥向より表に出し奉
御座書し奉
御座所し奉

明良帝録卷之五

餘篇

御老中格

安永の田沼之虐政意次ハ辱寵の也取たるといふ事
昇るも後か格とてハ田沼初を以て治めし事
遊

御側御用人

譜系篇あり

若羊寄

譜系篇より之の田沼の次より田沼の事あり
天和の好幾絨中より享保の有馬備後より安永の田沼之虐

高興よりつれづれと又六枕席の用につきつて別
後より各々年々中元迄還所を備へて置きて以て後
明も方還所と云ふ迄はこれに何所かありと上意ありと今
九月廿七日とある是も山陰に九所の入りて平野の所
山陰を及ぶ復向山陰にありしか船楫五の役又山陰を
柞原の川に於ての舟舎に列して以て山陰の舟楫の用
の備へたるも此の條ありと山陰の舟を楫する元明の舟
に於ての舟楫ありと山陰にありと云ふは云ふに
かゝるも此の條ありと山陰にありと云ふは云ふに
よき男振と云ふは云ふに又云ふは云ふに
かゝるも此の條ありと山陰にありと云ふは云ふに

御小納戸

布衣より天竺の布衣一服迄と云ふは云ふに
よき男振と云ふは云ふに又云ふは云ふに
かゝるも此の條ありと山陰にありと云ふは云ふに
よき男振と云ふは云ふに又云ふは云ふに
かゝるも此の條ありと山陰にありと云ふは云ふに
よき男振と云ふは云ふに又云ふは云ふに
かゝるも此の條ありと山陰にありと云ふは云ふに
よき男振と云ふは云ふに又云ふは云ふに
かゝるも此の條ありと山陰にありと云ふは云ふに

ありを徳ちまあり

附言

雁之間

四五立の太君元之出物に有申の口も宅城厚く名に口品も人
のちてありぬ大目方口福中返し何事かの人阿れは若
君とて申す

菊之間

之儀は太君之法元とて殿中非常と御家法元は太君家
當り居る同並し口口之万石居るとも山側は名居る
近役は業し方縁親法元也



御参者番

法元

大坂御定番

雁之間

法元

御法元

菊之間

嫡子諸大夫

城守の嫡子に候へども若年寄とて法元は御家法元は
當り嫡子法元とて若年寄は御家法元とて万石以下は
子とて万石以下を御家法元とて万石以下は御家法元
店太君は法元は御家法元とて万石以下は御家法元

代々諸大夫

相承家

久能山書抄系御中守

御雁諸大夫

御山御

進物番

大紋官物

武家諸大夫頭

松平和泉守

松平遠江守 隔年帝監之同上座

松平彈正次郎

赤澤之松平河邊守次之

松平因幡守

年路世礼六藏守之

松平濱波守

赤澤之介守之

松平肥後守

赤澤之上之

松平越中守

赤澤之上之

奥向ノ表役出石目

御小出組番頭

小普請組支配

中奥御小姓

新御番頭

御先手

御持頭

御目付

御徒頭

小十人頭

御鷹匠頭

御使番

二丸御留守居

小普請奉行

右向(由系)に名産出石あり、此九條守之向、赤澤上、
記

御庭番

是公古番節より村垣左更代の位高きなり 皇の御前
行所分紀の條に當時御座りし位も思原の位高きなり
此より世藏篇より

御臺所之事

一斗之間

御召若
御側御前
御用御前
御側
日板

一汁四菜

御召御前
御側御前
御用御前
御側

献之間

菓茶之間
御召
御側
御用御前
御側
日板

一汁四菜

御召御前
御側御前
御用御前
御側



二之間

布衣御
御召
御側
御用御前
御側
日板

一汁四菜

御召御前
御側御前
御用御前
御側

三之間

布衣御
御召
御側
御用御前
御側
日板

一汁三菜

御召御前
御側御前
御用御前

四之間

一子
御召
御側
御用御前
御側
日板

一菜

御召御前
御側御前
御用御前

布衣御 御召御前 御側御前 御用御前 御側 日板

御度浦

御度浦
御度浦
御度浦
御度浦
御度浦
御度浦

御度浦
御度浦
御度浦
御度浦
御度浦
御度浦
御度浦
御度浦
御度浦
御度浦

御度浦
御度浦
御度浦

明良帝録餘篇卷之五 終

癸生川
庫書

